

# 安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会



「安全は 無理せず 焦らず 油断せず」

全国統一スローガン

## 令和5年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等を受賞して

令和5年度安全就業シルバー人材センター優秀賞を受賞されました5センター(2回目◎1センター)、安全就業シルバー人材センター優良賞を受賞されました17センター、安全就業優秀連合賞1連合本部、優良連合賞1連合本部の報告をまとめ「臨時増刊号」として掲載しましたので、皆様方のシルバー人材センター及び連合本部におかれまして、ご参考にしていただき「安心・安全」のシルバー事業の発展を図ってください。

### 【優秀賞】

- ◎刈谷市シルバー人材センター (愛知県) ○加賀市シルバー人材センター(石川県)
- 安城市シルバー人材センター (愛知県) ○舞鶴市シルバー人材センター(京都府)
- 安芸高田市シルバー人材センター(広島県)

### 【優良賞】

- いわき市シルバー人材センター(福島県) ○行田市シルバー人材センター(埼玉県)
- 輪島市シルバー人材センター(石川県) ○磐田市シルバー人材センター(静岡県)
- 伊豆の国市シルバー人材センター(静岡県) ○蒲郡市シルバー人材センター(愛知県)
- 名古屋市シルバー人材センター西部支部(愛知県) ○常滑市シルバー人材センター(愛知県)
- 美方郡広域シルバー人材センター(兵庫県) ○周南市シルバー人材センター(山口県)
- 仁淀川町シルバー人材センター(高知県) ○黒潮町シルバー人材センター(高知県)
- 大川市シルバー人材センター(福岡県) ○宮若・小竹シルバー人材センター(福岡県)
- 行橋市シルバー人材センター(福岡県) ○山鹿市シルバー人材センター(熊本県)
- 八代市シルバー人材センター(熊本県)

### 【優秀連合賞】

- 佐賀県シルバー人材センター連合会

### 【優良連合賞】

- 秋田県シルバー人材センター連合会

## 1 刈谷市の概要

刈谷市は愛知県のほぼ中央に位置し、市の中央部には最先端技術を駆使した自動車産業の工場が集まっております。また、伊勢湾岸自動車道の刈谷ハイウェイオアシスは、連日多くの人で賑わっております。

人口は、15万2千人を超えており、ある調査において住み続けたい街ランキング全国第3位に選ばれたことがある住みやすい街となっております。

## 2 安全就業の取り組み

### (1)安全就業推進委員会

当センターでは、理事を含めた会員5名と職員3名の計8名からなる安全就業推進委員会を設置し、「事故ゼロ」を目指し、年10回程度開催しています。

安全意識の向上を図るための啓発活動や事故の再発防止対策に努めております。

### (2)安全パトロールの実施

年10回開催する委員会では、出来るだけ現場に出向く安全パトロールの実施を心がけ、その中でも令和4年度は安全パトロールを6回実施しました。

パトロールでは、事故の起きた現場の検証、原因の分析及び再発防止対策、受注するか判断に迷うような危険個所の事前確認などを行っております。また実際に就業している会員に対しての声掛けなどコミュニケーションを取ることも、安全就業においては重要なことと考えております。



### (3)各種講習会の実施

接遇・マナー講習会や刈払機講習会、熱中症予防講習会、自転車安全運転講習会、自動車安全運転講習会、新人会員向けの講習会(草取り、剪定)などを開催して、会員の知識やスキルの向上や安全意識の向上を図っております。

### (4)事故事例の共有化

全会員に会報誌「きらめき」などを通じて、事故事例の周知を行い、安全意識の向上を図るとともに事故の再発防止に努めております。

## 3 今後に向けて

この度の表彰を受け、今後もさらなる安全就業の徹底を図り、引き続き事故ゼロを目標に取り組んでいきたいと思っております。

### センターの概要(令和4年度)

①会員数533名(男406名、女性127名) ②粗入会率1.4%③就業率100%

④就業実人員546名(請負委任511名、派遣事業102名)

⑤就業延人員63,264日(請負委任51,751名、派遣11,513名)

⑥契約金額2億8,046万2,405円(請負委任2億1,405万5,149円、派遣事業6,640万7,256円)

## 1.加賀市の概要

石川県の最南端に位置し、東には霊峰白山を仰ぎ、南には大日山をはじめとする自然豊かな山々が連なっております。美しい溪谷や湧き出る温泉、湯、砂浜などの変化に富んだ自然が凝縮されています。これら豊かな自然を背景に、城下町や温泉街、港町、農山村集落などが立地しており、山中温泉、山代温泉、片山津温泉をはじめ、古九谷や北前船、山中漆器など、風土色豊かに多様な文化を築いている市です。

## 2.安全就業の取り組み

### ○安全パトロール

令和4年度は6月から10月にかけて月2回パトロールを実施。安全委員と事務局職員で主に剪定、草刈り、草むしりを中心に巡回し、安全就業確認表でチェックしています。特にヘルメット等の安全装備品を中心に確認しています。

### ○安全標語の募集

センター独自に安全標語の募集を実施しております。また、健康と安全は車の両輪として平成2年からは健康標語も募集し、優秀作品は定時総会で表彰するとともに会場に掲示し、議案書にも掲載して安全意識の啓発に努めています。

### ○罰則規定の導入

重篤事故を受けて、安全就業の徹底を期すために平成29年1月1日から罰則規定の運用を開始した。服装、ヘルメット、安全帯、作業場所の安全確認等に違反した場合。1回目口頭注意、2回目文書注意、3回目就業停止(1ヵ月)。傷害事故及び賠償事故にも件数の減少に一定の効果があったと考えています。

### ○事故免責額の自己負担

保険免責額1万円については、自己抑制を図る目的に全額会員自己負担としています。

### ○会員の健康管理(熱中症対策)

安全パトロールに合わせて熱中症対策として会員に飲み物や塩飴などの配布の実施。剪定や草刈り、草むしり等の屋外で作業する会員に対しSNSで注意喚起のメールを発信している。また健康診断を受診した会員には補助金を交付しています。



### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 892 名(男性 523 人、女性 369 人) ②粗入会率 3.35% ③就業率 74.6%
- ④就業実人員 665 人(請負・委任 515 人、派遣事業 177 人)
- ⑤就業延人員 87,860 人(請負・委任 59,095 人、派遣事業 28,765 人)
- ⑥契約金額 401,796 千円(請負・委任 263,840 千円、派遣事業 137,956 千円)

## 1. 安城市の概要

安城市は、昭和 27 年 5 月 5 日に市制を施行し、県下 13 番目の市として誕生しました。明治用水の豊かな水に生まれ「日本デンマーク」と呼ばれるほど農業先進都市として発展してきましたが、自動車関連企業をはじめとする大企業の進出、住宅団地の建設が盛んになり、急速に都市化が進みました。

また、工場や住宅がたくさんできたことによって商業も盛んになり、今では人口 19 万人ほどの都市に成長し、農・工・商業のバランスのとれたまちとなっています。

## 2. 安全就業の取り組み

当センターでは、理事 2 名、委員 4 名、安全就業推進委員 1 名の計 7 名からなる安全・適正就業委員会を設置しています。過去の事故を分析し、要因解析や対策立案、目標設定を行い、「多発事故の未然防止」「会員の命を守る」をテーマに活動しています。

### (1) 無双ツインブレードの導入

多発していた飛び石事故低減のため、各班最低 1 台無双ツインブレードを導入し、“石を飛ばさない”対策を徹底しました。令和 4 年度は飛び石事故 0 件を達成しています。

### (2) 自転車ヘルメットの着用促進活動

愛知県より「ヘルメット着用促進モデルセンター」に認定され、支給されたヘルメットのほか、メーカー直販の代理購入の実施などにより、合計約 90 個のヘルメットを会員に提供しました。ヘルメット着用が“当たり前”になるよう、自転車講習会の開催など、啓発活動に積極的に取り組みました。



### (3) 各職班専用 LINE による情報共有

事故の周知や注意喚起などをリアルタイムで行えるよう、剪定班や草刈班専用の LINE アカウントを作成しました。これまでの電話や SMS による連絡手段から LINE の活用でハチ刺されの補助治療剤(エピペン)の紹介やヒヤリハットなど、会員相互の情報共有により、安全意識の向上に繋がりました。

### (4) 熱中症対策グッズの配布

熱中症の対策として、冷感スカーフ、太陽光反射ベスト・帽子、フェイスマスクの配布を実施、加えてファン付き空調ベストの代理購入の実施により、会員に空調ベストを提供し、炎天下で働く会員の熱中症未然防止に努めました。

### (5) 1 人就業の原則禁止化

事故発生時に迅速な対応をすべく、1 人就業は原則禁止とし、事故を重大化させるリスクの低減を図りました。

## 3. 今後の取り組みについて

- (1) 重点課題である飛び石事故の低減のため、無双ツインブレードの利用割合の増加を目指します。
- (2) 熱中症緊急時に対応するため、重症の会員が早期に発見されるように防犯ブザーを配布します。
- (3) これまで実施した対策をより幅広く行い、「事故ゼロ」を目指し取り組んでまいります。

《事務局長 小笠原 浩一 記》

### センターの概要 (令和 4 年度)

- ① 会員数 1,068 人 (男性 642 人、女性 426 人)
- ② 粗入会率 2.1%
- ③ 就業率 98.5%
- ④ 就業実人員 1,123 人 (請負・委任 877 人、派遣事業 246 人)
- ⑤ 就業延人員 139,229 人 (請負・委任 119,437 人、派遣事業 19,792 人)
- ⑥ 契約金額 5 億 4,754 万円 (請負・委任 4 億 2,676 万円、派遣事業 1 億 2,078 万円)

### 1. 舞鶴市の概要

舞鶴市は、京都府の北東部、日本海が深く湾入した福井県との境に位置します。西地区は、細川藤孝(のちの幽斎)が築城した田辺城を中心とした城下町として栄え、関ヶ原の戦いにおける「田辺籠城戦」と、勅命により和睦を命じられた「古今伝授の逸話」で知られています。また、東地区は、明治34年の舞鶴海軍鎮守府の開庁に伴い、基盤目状の近代的なまちが形成されました。特に、市役所周辺には、当時の技術の粋を集めて建造された赤れんが倉庫が数多く残されており、それらが醸し出すノスタルジックな雰囲気が訪れる人を魅了し、京都府北部屈指の観光スポットとして多くの観光客を集めています。

### 2. 安全就業の取り組み

就業中や就業途上の事故ゼロを目標に、安全・適正就業対策委員会を中心に、会員ひとりひとりの安全意識の向上を目指して以下のことについて取り組んでいます。

- ① 安全・適正就業対策委員会の開催 定例会議 (4回/年)
- ② 事故発生時、事故調査委員会の開催により事故原因の確認と再発防止策
- ③ 安全標語の募集

令和5年度「気配り・目配り・確認で 摘んでしまおう 危険の芽」

- ④ 月刊広報紙「シルバーまいづる」による安全啓発(毎月)
- ⑤ 安全パトロール巡回による現場への効果的な指導と情報共有 (6回/年)
- ⑥ 除草班等への安全用具の貸与等  
(養生用防護ネット、カラーコーン、工事看板、業カルマー等)
- ⑦ 安全講習会の開催

草刈技能安全講習会、剪定技能安全講習会、交通安全講習会等

- ⑧ 刈払機安全衛生教育の受講の推奨と受講費用の補助

毎年発生している刈払い機の作業中の飛び石事故については、長年の課題となっているため、特に力を入れて対策を講じてまいりました。事故件数が「0」とまではいきませんが、上記の取り組みを実施することで、除草班のリーダーを中心に作業員全員が安全への意識を高めてきています。



### 3. これから

安全対策に終わりはありません。今回受賞した「安全就業センター優秀賞」に慢心することなく、日々変わる状況に対応できるように、会員・職員が一丸となって安全への気配り・目配り・確認に取り組んでまいります。

《事業課 課長 奥本 訓也 記》

#### センターの概要(令和4年度)

- ①会員数 681 人(男性 436 人、女性 245 人) ②粗入会率 2.3%
- ③就業率 請負委任 91.7%、派遣 32.3%
- ④就業実人員 請負委任 625 人、派遣 34 人
- ⑤就業延人員 請負委任 70,473 人、派遣 3,058 人
- ⑥契約金額 請負委任 363,047 千円、派遣 18,732 千円

## 1. 安芸高田市の概要

安芸高田市は、広島県の中北部に位置し、北は島根県、南は広島市に接し、人口は約 27,000 人、高齢化率は 40.6%、市域の8割を森林が占め、小起伏の丘陵と小盆地が帯状に形成された水と緑が調和した田園都市です。

戦国時代に中国地方を統一した毛利元就が生涯を過ごした当市には、毛利氏ゆかりの史跡が数多く残されており、豊かな歴史的資源や神楽・花田植等、郷土芸能地域特有の文化を継承することで、地域の活性化に繋がっています。

## 2. 安全就業の取り組み

### (1) 安全委員会の開催

構成人数 9 人(理事 3 人、総括地域委員 6 人)で年 2 回会議を開催し、健康管理や事故防止対策などを協議し、年間活動計画の基、会員が安全に就業できる体制に努めています。

### (2) 安全パトロールの実施

安全委員 2 人と事務局職員 1 人でチームを編成し、抜き打ちパトロールを毎月実施し、安全就業強化月間として 7 月には市内一斉パトロール、就業の多い 10 月には月 2 回パトロールを実施しています。

事故が起きた現場での検証をはじめとして、パトロール時には植木剪定作業、除草作業、屋内外清掃作業等を作業ごとに分類した「安全就業チェックシート」を使って基本事項の徹底を厳しく指導しています。

### (3) 安全標語の募集

毎年、安全意識の高揚を目指し、全会員を対象に募集を行い、入賞者を表彰しています。

入賞作品については、広報誌や事業所に掲載することで会員に周知しています。

### (4) 事故防止用具・安全装備の使用

刈払機による飛び石事故対策として、原則ヒモ刈りの禁止、飛散防止ネットの使用、安全対策として作業中看板やカラーコーンを設置し、剪定や除草などの屋外作業会員へは蜂スプレーを配布しています。



### (5) 安全就業の周知

時期に応じて、安全就業ガイドブックや熱中症・蜂・マダニ・マムシの注意事項のチラシを配布することで、作業前の注意喚起が強化されて安全就業へ繋がっています。

## 3. 今後に向けて

「安全はすべてに優先する」を念頭に、今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指して取り組んでまいります。

### センターの概要(令和 4 年度)

- ①会員数 314 人(男性 209 人、女性 105 人) ②粗入会率 2.49%
- ③就業実人員 請負・委任 287 人、派遣事業 68 人
- ④就業率 請負・委任 91.4%、派遣事業 100%
- ⑤就業延人員 27,583 人(請負・委任 23,310 人、派遣事業 4,273 人)
- ⑥契約金額 1 億 2,596 万円(請負・委任 9,609 万円、派遣事業 2,987 万円)

## 1. いわき市の概要

いわき市は福島県の浜通り南部、茨城県と隣接する広大な面積をもつまちで、東は太平洋に面しているため、寒暖の差が少なく、温暖な気候に恵まれた地域です。また中核市にも指定されており、工業都市の一面を有しています。

明治期から日本の近代化に貢献した常磐炭田があり、閉山後は炭鉱離職者の雇用の為、温泉を利用した娯楽施設がオープンしました。映画「フラガール」の舞台となった常磐ハワイアンセンター（現スパリゾートハワイアンズ）といえお分かりなる方も多いかと存じます。他にいわき湯本温泉やアクアマリンふくしまなどの観光施設があります。

## 2. 安全就業の取組み

### ○安全適正就業推進委員会

委員会は理事会より3名 安全講師1名 植木班班長1名 グループリーダー5名 安全パトロール指導員1名 事務局2名で構成し、安全就業と適正就業の事業計画策定や委員会による安全パトロール、就業期限による会員交代などを協議するため年3回開催しています。

### ○安全パトロール指導員によるパトロール

安全パトロール指導員は会員から人選し、原則週2日（年間100日程度）8時30分～17時での活動をする内容で委嘱（臨時職員同等）しています。活動日は事務局に出勤し、出勤日に合わせ A 会員の就業現場、B 会員の就業現場と事務局が事前に把握した情報を提供し、各就業現場に抜き打ちでのパトロール活動を行っております。又継続的な事業所には巡回パトロールなどを計画的に実施し、業務日誌とパトロール報告書を作成していただいています。

この度、優良賞を受賞できたのは、会員の傷害事故の強度率と、特に安全パトロール指導員の活動実績が評価されたものと考えています。

### ○SMS を利用した情報の発信

従前より「毎月20日を安全就業の日」としていましたが、これといった活動実績はありませんでした。令和4年度より SMS を利用し全会員に安全就業の呼掛けメッセージを発信しており、呼掛け内容も毎回変化するようにしています。他にその時々において安全就業の注意喚起のメッセージを発信しています。

### ○空調付き作業着の奨励

令和4年度の委員会からの提案を具現化し、令和5年度から熱中症予防対策の一環として空調付き作業着等の購入費をサポートするため要綱を策定し、助成金を交付しています。

### ○刈払機の飛石事故

刈払機による事故は、損害額が多額になる傾向から、令和元年度から刈払機取扱会員を対象に年1度の懇談形式の講習受講を義務付けしました（407名参加）。内容は事故事例報告など、敢えて簡単な内容に絞って講習しました。しかし令和2年～4年に感染拡大防止の観点から、資料配布のみにとどめたこともあり、3～4年度は事故が多発したことも事実であります。5年度は、新たな気持ちで懇談形式の講習を再開します。

今回の表彰を受け、今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指して取り組んでまいります。

《 常務理事兼事務局長 須永 敦 記 》



### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 1,173 名 (男性 864 名 女性 309 名) ②入会率 0.98%
- ③ 就業実人員 981 人(請負委任 950 人 派遣 31 人) ④就業率 83.6%
- ⑤ 就業延人員 88,334 人(請負委任 85,713 人 派遣 2,621 人)
- ⑥ 契約金額 4 億 9,946 万円(請負委任 4 億 8,579 万円 派遣 1,367 万円)

## 1 地域の概要

行田市は、埼玉県北部に位置し、埼玉県名発祥の地の由来となっている「埼玉古墳群」を有し、利根川と荒川に挟まれた水と緑あふれる豊かな町です。産業においては、江戸時代から続く足袋の生産地として知られ、市内には商品化された足袋を保管しておく倉庫として、多くの「足袋蔵」が建てられています。平成29年4月には「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」のストーリーが、埼玉県内初の「日本遺産」に認定されました。

また、歴史小説「のぼうの城」(和田竜著・小学館)や映画「のぼうの城」(アスミックエース)の舞台となった忍城は、室町時代に成田氏によって築造され、天下統一を目指す豊臣秀吉に、忍城討ちを命じられた石田三成軍の水攻めにも耐えぬき、難攻不落の名城として知られています。

## 2 安全就業の取り組み

安全・適正就業推進委員会を設置し、安全就業に取り組んでおります。委員会の構成は、理事3名、企業に就業されている会員3名、職群班2名及び事務局職員2名の10名で組織され、年度の初めに年間活動計画を策定し、会員の安全就業に努めています。

### (1) 安全や健康への意識の向上について

毎月1日は「安全・美化・健康の日」と定め事務所玄関に看板を設置し、会員への安全就業、健康維持への意識の醸成を図っています。

### (2) 巡回指導の実施

毎月1回、委員2名及び職員により、剪定作業や草刈り作業現場の巡回指導や屋内外軽作業に就かれています。巡回指導の結果については、定例委員会に報告をし、就業の仕方や安全面で課題があれば検討し、就業する会員に情報提供を行うなど対応をしています。



### (3) 各講習会の実施

過去3年間は、コロナ禍の影響で安全及び健康に関する講習会を自粛しておりましたが、令和4年度は、「防火・防災訓練及び救急指導講習会」「接遇力向上講習会」「フレイル予防教室」を開催し、会員の知識や技術の向上に努めました。特にフレイル予防に関しては、率先して協力してくれる会員による事業化を図り、健康管理の推進に努めています。

### (4) 事故防止の対応

事故が発生した場合、事故内容を把握するため、事故当事者、担当委員及び職員で事故発生現場に行き、検証を行い、意見交換をすることにより再発防止に向けた助言や指導を行っています。

### (5) 安全就業の周知・啓発

「月次報告書」や年3回発行の「安全・美化・健康だより」を通じて、全国で発生した賠償及び傷害事故の事例を掲載することで安全就業に関する注意喚起を行うとともに再発防止に努めています。

### (6) 今後に向けて

結びに今回の優良表彰を受けられたことは大変名誉なことではありますが、これに甘んじることなく、引き続き安全就業の徹底及び健康管理に十分注意し、会員及び役職員一丸となり取り組んでおります。

### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数329人(男 235人 女 94人) ② 粗入会率1.1% ③ 就業率79.9%
- ④ 就業実人員 請負・委任 238人、派遣事業 47人
- ⑤ 就業延人員 26,406人(請負・委任 22,578人、派遣事業 3,828人)
- ⑥ 契約金額1億1,459万円(請負・委任 9,508万円、派遣事業 1,951万円)

輪島市は、石川県金沢市から北へ約百キロ、能登半島北部に位置します。人口は約2万7千人です。日本を代表する漆器輪島塗は特産品でその堅牢さと華やかさで知られています。

古くは北前船の寄港地として栄え、漁業も盛んで日本有数の「ふぐ」水揚げ港となっています。また日本海の輪島沖舳倉島では海女によるアワビ、サザエなどの素潜り漁もおこなわれています。朝に水揚げされた魚介類を輪島朝市で元気よくおばちゃん達が販売しています。

## 安全就業の取り組み

当シルバーは、会員の健康管理と安全就業並びに災害防止対策の推進を図るため、安全適正就業委員会を設置しています。委員会は10名で委員長、副委員長を置き、関係行政機関職員及び会員で構成されています。

### (1) 安全適正就業委員会の開催

年度当初に事業活動計画を決める委員会を開催し、前年度の事故発生状況などの対策を確認し安全パトロールなど具体的な安全就業の取り組みを協議しています。

### (2) 技能講習会の開催

技能向上、安全就業のため、剪定講習や刈払機取扱講習を実施して危険を自覚し、安全に作業ができるよう取り組んでいます。

### (3) 救急講習会の開催

安全就業のための体調管理や救急時の対応、対策を消防署救急隊員による講習会を実施して学んでいます。

### (4) 安全パトロールの実施

安全委員と職員で剪定作業、草刈作業、除草作業等の現場の安全を確認するためパトロールを実施し、準備運動や体調管理、作業に適した服装、装備などを点検し、また作業現場までの移動時における交通ルールの確認を実施しています。

### (5) 「会員だより」による安全就業啓発

毎月発行している「会員だより」に安全就業に関する広報を掲載し啓発活動を実施しています。この度の「安全就業優良賞」受賞を励みに、「安全は全てに優先する」を最重要課題として、今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指していきます。



## センターの概要(令和4年度)

- ①会員数 358人(男性206人、女性152人) ②粗入会率 2.7% ③就業率 86%
- ④就業実人員 309人(請負・委任308人、派遣のみ 1人)
- ⑤就業延人員 31,070人(請負・委任30,044人、派遣事業 1,026人)
- ⑥契約金額 13,482万円(請負・委任12,747万円、派遣事業 735万円)

## 1. 磐田市の概要

磐田市は、静岡県西部（遠州）にある市で、人口はおよそ 16.7 万人です。律令時代以降は、遠江国の国府・国分寺がおかれた政治文化の中心都市でした。2005 年 4 月 1 日に 1 市 3 町 1 村が統合して、現在の磐田市となりました。輸送機器産業をはじめとする工業都市であり、隣接する浜松市の衛星都市です。また、「スポーツのまち」としても知られ、Jリーグのジュビロ磐田のホームタウンであり、JAPAN RUGBY LEAGUE ONE の静岡ブルーレヴズの本拠地です。小中学校のグラウンド芝生化や、総合型地域スポーツクラブの育成、スポーツによる健康の推進、スポーツ大会などの拠点づくりを重要整備としています。

## 2. 安全就業の取組み

### ○安全・適正就業委員会

「事故ゼロ」を目指して年間 3～4 回の開催をしています。委員会では、安全に関する規程等の見直し、作業現場の巡回及び事故現場の検証（特に飛び石事故は重点検証）、講習会等の開催、「安全就業だより」の発行、安全・健康標語の募集、年 2 回発行の機関紙に「安全のひろば」を設けて会員からの投稿など行っています。

### ○安全パトロール

毎年、現場の安全巡回指導として、毎月 1 回を目標に現場の安全指導を行っています。メンバーは、安全・適正就業委員（理事・会員）と職員で構成されています。特に、事故が多発する植木・除草・清掃作業の現場を重点的に巡回しています。現場の安全確保・作業前チェックシート・ヘルメット着用・ネット設置・安全帯着用などの確認を行っています。



### ○安全標語の募集

毎年 2 回、7 月と 10 月をそれぞれ安全就業及び健康衛生月間として標語を募集しています。応募のあった標語の中から最優秀・優秀標語を安全・適正就業委員会にて選考し、最優秀標語は定時総会にて表彰しています。また、最優秀及び優秀標語はセンター機関紙に掲載をしています。

### ○「安全就業だより」発行及び機関紙シルバーいわた「安全のひろば」掲載

「安全就業だより」を年 3 回発行し、会員に注意喚起を行っています。内容は、外仕事に携わる作業が中心となっており、昨年は「熱中症」「コロナ」「転倒」などについて注意喚起を行いました。また、機関紙に「安全のひろば」を設けて、主に会員の皆さんが就業する際に工夫していることや注意していることなどを掲載しています。最近では、SMS を利用して「熱中症」などの体調管理などの注意喚起を会員に伝えています。

### ○草刈刃の指定

当センターの事故のおよそ 70% を除草作業が占めており、平成 28 年度よりネット設置を義務化により「飛石事故」撲滅に取組み、平成 30 年度からは石が飛びにくい「カルマー」を導入して「チップソー」と「カルマー」の 2 本立てで草刈作業をしてきました。「カルマー」導入後は相乗効果もあり、全体の事故件数は半分近く減少しました。しかし、依然として「飛石事故」が減少しないため、令和 5 年度からは「チップソー」等の草刈刃の使用は廃止とし、「カルマー」・「センターで認定した草刈刃（チップが飛びにくい）」のみとして作業を行っています。

## 3. これからの安全就業

当センターでは、就業中の事故が 90% 以上を占めています。最近では、特に賠償額が高額になっており、シルバー保険ではカバーしきれない事例も発生していることから、1 事故の対応に時間がかかる傾向となっています。そのため、シルバー保険でカバーできないケースも考え、センターで独自の貯えをする必要があると考えています。また、全国的に高齢化が進む中、除草・植木作業などは保険対応・健康面等も含めて高齢者である会員にはリスクの大きい就業になってきており、センターが精査・吟味した仕事を高齢者である会員に提供することが大切だと思います。

《事務局長 福井久行 記》

### センターの概要(令和 4 年度)

- ① 会員数 792 人（男性 513 人 女性 279 人）
- ② 粗入会率 1.4%
- ③ 就業実人員 684 人（請負 572 人 派遣 112 人）
- ④ 就業率 86.4%
- ⑤ 就業延人員 83,535 人（請負 68,074 人 派遣 15,461 人）
- ⑥ 契約金額 3 億 6,028 万円（請負 2 億 8,893 万円 派遣 7,135 万円）

## 1. 伊豆の国市の概要

伊豆の国市は伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置し、平成17年、田方郡伊豆長岡町、大仁町、菰山町が合併して誕生しました。東は箱根山系の連山に、西は城山、葛城山などの山々に囲まれ豊かな自然環境を保っています。平野部は南北に狩野川が流れ、豊かな田園地帯が広がっており、狩野川に沿うように国道136号線、伊豆箱根鉄道が走り、周辺に市街地を形成しています。また、菰山反射炉そばの展望台から、反射炉と富士山が同時に見えることから『W世界遺産の町』としても知られています。市内には伊豆長岡温泉があり、気軽に利用できる足湯や公衆浴場も観光客に人気があります。

## 2. 安全就業の取組み

会員の健康と安全、適正な就業対策を推進するため、理事・会員、職員11名からなる安全・適正推進委員会を設置し、会員の就業における事故防止のための措置、会員の健康及び安全就業のための教育を行います。

### (1) 安全パトロールの実施

例年、理事長、常務理事(事務局長)、理事、安全・適正就業推進委員、職員で各4名の班を編成し、事故発生リスクが高い業務の現場に抜き打ち安全パトロールを行っています。

安全パトロールでは、安全就業チェックリストをもとに安全配慮、就業状況等の確認を行い、不備があればその場で直接改善指導を行います。

また安全・適正就業委員会では、安全パトロール結果や発生した事故状況等の検証を行い、会員へ再発防止の徹底に努めています。



### (2) 安全講習会の実施

運転業務に就業している会員を対象に自動車安全運転講習を実施し、運転技術、法令等を再認識することで交通安全に対する意識の高揚に努めるとともに、車両事故発生の抑制を図りました。

また「植木の剪定」「刈払機」講習を利用し、安全保護具の着用の必要性や刈払機の点検方法、飛散防止ネットの設置など、安全な作業を常に心掛けて行動するよう周知徹底を図りました。

### (3) 会員の健康管理

夏季の熱中症対策や健康管理には産業医や理事長などが巡回し、啓発・注意喚起を行っています。自らの健康状態を知ることによって事故リスクをなくすため、会員に対し、市の健康診断受診を奨励しています。

今回の表彰を受け、今後も会員・役職員一丸となって安全就業の徹底を図り、事故防止に取り組んで参ります。

≪常務理事兼事務局長 柳本 加代子 記≫

### センターの概要(令和4年度)

- ①会員数 513 人(男性 358 人、女性 155 人) ②粗入会率 2.7% ③就業率 77.4%
- ④就業実人数 397 人(請負・委任 390 人、派遣事業 117 人)
- ⑤就業延人員 51,231 人(請負・委任 40,845 人、派遣事業 10,386 人)
- ⑥契約金額 289,411 千円(請負・委任 217,022 千円、派遣事業 72,389 千円)

## 1. 蒲郡市の概要

蒲郡市は愛知県にあり、本州のほぼ中心に位置する、人口約80,000人の市です。2つの大きな半島に囲われた海辺の観光地で、三河湾国定公園に指定されています。約47kmの海岸線沿いに4つの温泉地を持ち、市内には日本の文化を感じさせる神社や仏閣の多い、美しい土地です。

## 2. 安全就業への取り組み

### (1) 安全対策部会

構成人数5人(理事2人、事務局3人)で、安全に就業するためのルールの制定、実施計画や事故の原因分析と防止対策、作業内容の検証・見直しをしています。

### (2) 事故防止用具の推奨

除草作業において、特に飛び石による賠償事故が発生していることから、機械の特性や取り扱いを理解していただくために、刈払機講習の実施やナイロンコード刈りの禁止徹底、チップソー使用の許可制、飛び石ネットの原則設置、無双ツインブレード(上下刃回転ハサミ切り方式刈払機)の使用推奨を行うとともに、危険個所の見直しも含め、定期的に班長会議を行う等、安全対策の徹底に努めています。

### (3) 安全推進スローガンの募集

毎年、安全意識を高めるため、全会員を対象に募集を行い、優秀作品の選定、事務局だよりへの掲載など会員の意識啓発に取り組んでいます。



### (4) 安全パトロールの実施

部会(理事、事務局)にて、事故ゼロを目指し、作業場所をパトロールしています。特に、除草や剪定箇所において、指示内容の確認、作業時の服装、用具の確認、安全対策の実施

#### センターの概要(令和4年度)

- ①会員数 842人(男性 451人、女性 391人) ②粗入会率 3.0% ③就業率 81.6%
- ④就業実人員 714人(請負・委任 554人、派遣事業 160人)
- ⑤就業延人数 84,326人(請負・委任 63,383人、派遣事業 20,943人)
- ⑥契約金額 3億3,278万円(請負・委任 2億2,385万円、派遣事業 1億893万円)

## 1 地域の概要

名古屋市は人口約 232 万人で政令市では第 3 位、三大都市圏の中心都市です。

1889 年に市制施行され、1908 年に全国 3 番目の政令市となり現在では 16 区の行政区を有しており、中部・東海地方の行政・経済・文化の中枢を担っています。

地理的には濃尾平野の西側に位置し、南部には名古屋港を中心とした日本有数の工業地帯があり、東部・北部には住宅地が広がり、中心部は商業地域で多くの企業が集まっています。

西部支部の管轄エリアは北・西・中村・中区で、名古屋の北西部と中心部にあたり、名古屋駅から最大の繁華街・栄にかけての商業地域や住宅地域が主となっています。発注者も企業が多いという特色があります。

## 2 安全就業の取り組み

### (1) 名古屋市 SC 全体の取り組み

- ・安全適正委員会の設置 年 4 回開催 会員職員 20 名で構成
- ・「安全適正委員会からのお知らせ」を年 5 回発行、全会員に配布・周知
- ・安全巡回 年 1 回（各支部 6 か所）
- ・各種研修 ～交通安全研修、事故会員対象 KY 研修（年 4 回）、健康づくり講習等
- ・安全物品の配布 ～安全帽子、反射ベスト、熱中症対策ネッククーラー、反射材等

この他、職種別安全基準を設定しており、中でも植木手入れは「4 m 以上の作業、樹木の伐採禁止」、除草作業では、刈払機を「カルマー刃に統一」している点が当センターの特徴です。

### (2) 西部支部の取り組み

・支部安全適正対策委員会の設置 年 4 回開催 会員職員 10 名で構成

～安全適正委員会とも連動し、安全就業の取り組みを計画実施

・支部広報紙（毎月発行）、安全啓発記事を掲載し全会員に配布・周知

～特に自転車ヘルメットの着用を繰り返し呼びかけ

- ・安全巡回 発注者と調整を行う中で、随時安全就業の確認を実施
- ・安全物品の配布 ～夏は熱中症予防の塩飴、冬は靴に貼る反射シールを来所者に配布

この他、西部独自で「類似事故注意報」（植木手入れ版、よくある事故版）を作成し、全会員に周知するとともに、事故の情報は必ず全職員（職種によっては職群班長も）で共有し、訪問時や連絡時、また職群班ミーティング等で注意喚起を行うなど、類似事故を防ぐ取り組みを行っています。



【植木講習の様子】

## 3 今後の安全就業について

事故減少に特效薬はないことを日々実感しております。啓発・周知・巡回を繰り返しながら就業会員への啓発を粘り強く行うより他はありません。今回、表彰をいただきましたが、事故減少への取り組みはまだまだやれることがあるのでは、とも思います。今後も会員・職員ともに足並みをそろえながら、安全就業を目指していきたいと思っております。

### センターの概要【令和4年度：西部支部】

- ① 会員数 2,100 人(男性 1,233 人、女性 867 人)
- ② 粗入会率 1.24%
- ③ 就業実人員 1,502 人
- ④ 就業率 71.5%
- ⑤ 就業延人員 191,712 人
- ⑥ 契約金額(請負 643,689 千円 派遣 174,085 千円)

## 1. 常滑市の概要

常滑市は、人口5万8千人、高齢化率は25.9%、愛知県知多半島の西海岸に位置し、東西6キロメートル、南北15キロメートルと南北に細長い街です。平安時代末期ころからの「古常滑」と呼ばれる焼き物の産地として知られ、また、対岸部に中部国際空港があり、空港を活かしたまちづくりを進めています。

## 2. 安全就業の取り組み

### (1) 安全・適正就業推進委員会の設置

理事2名、職群班別会員4名、安全・適正就業推進委員1名の計7名で構成。年3回安全・適正就業委員会を開催

### (2) 安全パトロールの実施

以前、安全委員全員で年3回行っていた安全パトロールを、令和3年度から機動力を上げて年間16回、予告無しでパトロールを行っている。安全・適正就業委員1名(6名が交替で)と推進員(事務局)1名の2名体制でパトロールを年8回(令和4年度実績)、安全・適正就業推進員(事務局)1名によるパトロールを年8回(令和4年度実績)実施している。また、その他にも職員業務担当者と安全・適正就業推進員によるパトロールも随時行っている。

### (3) 会員による安全確認の報告体制について

剪定、除草、残材および一般家庭不用品運搬作業については、すべての現場において、下見時と作業前後の安全確認を就業会員自ら行う体制が整っている。現場ごとに作業班で安全確認担当者を決め、担当者が責任をもって書面(「安全確認報告書」という)により、現場の安全状況を報告する体制が確立している。この仕組みによって受注の可否の判断や事前および事後のトラブルへの対応など速やかである。

### (4) ハサミ刈り式刈払機を全面導入

令和元年度10月より、刈払機の刃をチップソーからハサミ刈り式を全面導入。会員による見積基準等検討委員会の設置、草刈機作業班や公園管理作業班等への説明、発注者への文書による予告と周知を経て全面導入に至った。全面導入した理由は、一部チップソーの使用を許可した場合、“一部”を拡大解釈する事案が少なからず発生することが予測されたためである。刈払機による見積㎡単価は、それまでは3ランクあったものを1ランクとし、見積りが容易で分かりやすくなった。



### (5) 剪定作業の会員をグループ化

令和元年度より、剪定班の一人作業を全面禁止とした。剪定作業においては職人気質が強く、一人作業を好む会員も多く、長きにわたりグループ化は課題であったが、会員からの反発を承知でグループ化(必ず2人以上)を図った。他の会員と馴染まず辞めていった会員もいるが、今ではグループ就業が“あたりまえ”となっている。

《安全・適正就業推進員 半月 千鶴 記》

### センターの概要(令和4年度)

- ①会員数 339人(男性196人、女性143人) ②粗入会率1.89% ③就業率57.0%
- ④就業実人員 278人(請負・委任 185人、派遣93人)
- ⑤就業延人員 21,152人(請負・委任14,906人、派遣6,246人)
- ⑥契約金額 8,894万円(5,191万円、3,703万円)

## 1 美方郡の概要

美方郡は、兵庫県の北西部に位置し、香美町と新温泉町の2町からなり、北は日本海、西は鳥取県、東は豊岡市、南は養父市に接しています。山陰海岸国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園、但馬山岳県立自然公園など自然公園指定区域を有しており、海・山・川・温泉と美しい自然環境に囲まれた「但馬牛」が飼育されている地域です。

## 2 安全就業の取組

### (1) 安全委員会の開催

理事5名、会員(職群班正副班長)4名、職員7名で構成する安全委員会を設置しており、年3回程度の委員会を開催し、就業災害の防止、点検及び事故の原因調査や対策等検討し「事故ゼロ」を目指して、会員の安全意識の周知徹底を行っています。

また、安全就業スローガンの募集を行い、会員自らの安全就業に対する意識の高揚を図るとともに、優秀標語を安全ニュースに掲載し、会員全体の安全就業への意識啓発を行っています。

### (2) 安全パトロールの実施

安全委員会委員による巡回パトロールを6～10月にかけて、草刈り、植木剪定作業現場を中心に実施しています。現場では、チェックシートにより点検を行い、不備があればその場で指導を行っています。

### (3) 安全・技能等講習会の開催

技能の向上、安全就業の徹底を図るため、各種講習会を年1回開催しています。

刈払機取扱講習会では、機械の点検・整備方法や、作業時のネット等による養生の徹底やカルマーの使用の推奨などを行い、安全対策を行っています。

植木剪定については、樹の高さや現場の安全確認、三脚の設置場所の周知など行っています。

自動車運転業務に関わる会員には、自動車運転講習会を地元の自動車教習所に依頼し、路上での運転チェック、運転診断を受け、日頃の運転を再確認していただいています。

### (4) 安全ニュース等による啓発活動

熱中症対策、作業中の事故防止、交通事故防止など「安全ニュース」や「事務局だより」を発行し、注意喚起と安全就業の周知を徹底しています。



## 3 今後に向けて

「安全は全てに優先する」「安全無くして就業なし」を合言葉に、安全就業基準を守り、日頃からの健康管理の徹底と、就業中の事故のみならず、就業途上での交通事故等の防止に努め、「事故ゼロ」を目指して安全就業に取り組んでまいります。

〈常務理事兼事務局長 駒居 勝 記〉

### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 270人(男性 180人、女性 90人) ②粗入会率 1.87% ③就業率 88.5%
- ④就業実人員 239人(請負・委任 230人、派遣事業 35人)
- ⑤就業延人員 20,080人(請負・委任 17,119人、派遣事業 2,961人)
- ⑥契約金額 10,123万円(請負・委任 8,760万円、派遣事業 1,363万円)

## 1 周南市の概要

周南市は、山口県東南部に位置する人口約14万人のまちです。北部に中国山地が広がり、南部は瀬戸内海に面しており、海岸沿いに市街地が形成されています。沿岸部には全国有数の石油化学コンビナートが広がっており、製造品出荷額は県全体の4分の1を占めるなど県経済をけん引する存在となっています。

また、周南コンビナートでは、カーボンニュートラル(温室効果ガスの実質排出ゼロ)を目指し、市・化学工学会・コンビナート企業5社の産学官連携での取組みは、全国的に注目されているところです。交通面では、新幹線「のぞみ」や「さくら」が停車するJR徳山駅があり徒歩圏内に、徳山下松港が広がっています。

高速道路のインターチェンジは4か所あり、県内2か所の空港からは、車で1時間程度の立地条件に恵まれた街です。

## 2 安全就業の取組み

安全はすべてに優先する課題であり、安全就業は事業運営の基本です。就業中の事故はもとより、交通事故の防止や健康管理に全力を挙げて取り組んでいます。草刈り作業時の飛び石による物損事故や、ハチ刺されや就業途上の交通事故などが発生しています。当センターでは「安全適正就業委員会」(役員5人、会員6人)を設置し、定期的に会議を開催し再発防止策について協議しています。

### (1)安全適正就業委員会(安全パトロール)

令和4年度においては安全適正就業委員会及び安全パトロールを合計6回実施し、委員による就業状況の現地確認をしています。

### (2)安全推進大会・剪定班全体会議

コロナ禍で、中止となっていた大会や、職群班による全体会議を4年ぶりに開催することができました。



### (3)健康だよりの発行

安全就業に欠かせない健康の保持増進のため、衛生委員会で検討した「熱中症対策」や「スズメバチ対策」等のチラシを作成し全会員に郵送しました。またSMSを活用した情報提供にも努めています。

### (4)健康チェック票の作成

事故を未然に防止する目的で、就業会員の健康状況の把握に努めています。

入会時の健康状態の聞き取りのほかに、就業会員が自身の健康に関心を持ち、安全に就業ができるよう定期的に、衛生管理者の指導のもとで健康チェック票を作成し評価しています。

### (5)救急かばんのチェック

現場作業に携帯している「救急かばん」の内容点検に取り組んでいます。

### センターの概要(令和4年度)

①会員数 1,004人(男性 598人 女性406人) ②粗入会率 1.85% ③就業率 81.0%

④就業実人員 814人⑤就業延人員 91,962人

⑥契約金額 46,586万円 (請負・委任 37,055万円 派遣事業 9,531万円)

### 1. 仁淀川町の概要

仁淀川町は、高知県の中北部、高知市と松山市を結ぶ国道33号線の中に位置し、人口は約5,000人で面積の約9割を山林が占めております。町内を流れる仁淀川は、水質全国1位の清流で近年「仁淀ブルー」と称せられ、多くの観光客が来ています。2月11日に開催される「秋葉まつり」は、土佐三大祭りの一つに数えられ、その日ばかりは約1万人の人出でにぎわいます。

### 2. 安全就業の取り組み

(1)安全・適性就業委員会を年2回開催し、県下のシルバー人材センターの事故を委員同士で共有し、当シルバーに関連するものについて安全対策について検討しています。

(2)まず、職員の安全意識の向上を図る。

木の伐採等の依頼の場合、職員が下見をする際、危険と判断される作業については、土木業者、森林組合に依頼してもらうように発注者に促します。作業可能な場合は、会員を案内する際、危険個所について一つずつ作業手順を確認するようにしています。

(3)安全パトロールの実施

熱中症が心配な場合、現場にスポーツ飲料水を持って会員に声掛けをしています。

(4)会員とコミュニケーションをとる

会員が報告書を持ってきたときは、必ず飲み物を提供し、椅子に座って、作業について雑談等を含め話をするようにしています。その中で、危険な作業について道具の確認、手順のことなどを話し合うようにしています。



### 3. 今後の取り組み

この度の表彰を励みに、今後も会員及び役職員一体となって事故ゼロを目指して安全就業に取り組んでいきます。

《事務局次長 中野 智恵子 記》

#### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 151人(男性 86人、女性65人) ②粗入会率 5.1% ③就業率 77.5%
- ④ 就業実人員 117人(請負・委任 114人、派遣3人)
- ⑤ 就業延人員 7,318人(請負・委任 6,698人 派遣 620人)
- ⑥ 契約金額 3,141万円(請負・委任 2,866万円 派遣275万円)

## 1 黒潮町の概要

黒潮町は、四国/高知県の西南地域にあり、幡多郡の東玄関に位置します。黒潮町の総面積18,846haのうち79%を森林が占めており、住宅及び農地等は大方地区中央部と佐賀地区海岸部に集中し、さらに各地区の山間部や海岸沿いに点在する等、人口1万人強の自然豊かな小さな町です。当地域は、カツオ一本釣りの町・クジラに会える町・黒潮一番地の町です。また、延々4kmも続く白砂青松の砂浜美術館があり、年間通じて様々な取り組み(イベント等)を行っています。

## 2 安全就業への取り組み

会員の健康と就業上の安全・適正就業はセンターの事業運営の基本であり、会員の事故を未然に防止し、安全・適正に就業ができる環境整備を推進しています。

### (1) 安全・適正就業委員会の開催

理事3名、会員4名、事務局2名(計9名)による安全・適正就業委員会を設置し、年間2回程度の会議を開催し、出席者全員による安全パトロールにおいて各現場での会員との情報交換を行い、「事故ゼロ」を目指す取り組みを行うとともに、委員会では年間の現場巡視計画を策定するなど会員の健康と安全対策に重点をおいた取り組みをしています。

### (2) 安全就業研修会等の実施

安全委員会と事務局が中心となり、年1~2回程度の安全就業研修会を開催し、チェーンソー・刈払機・脚立等を使用する作業や屋内作業等における安全対策等について、会員への情報共有と周知徹底に取り組んでいます。

### (3) 現場巡視活動(安全パトロール)の実施

事務局活動の一環として、事務局職員による現場巡視(安全パトロール)を積極的に行い、就業現場における安全・適正就業や危険行為等についての意見交換をするなど、「安全第一」の意識付けと情報共有に努めています。

### (4) その他

年々 苛酷になる猛暑に向け梅雨明けを控える例年7月には、「熱中症予防」を主にした注意喚起文書を会員全員に発信する等、安全対策と安全意識の向上に向けた啓発活動に取り組んでいます。



## 3 今後に向けて

今回の受賞は会員一人一人の安全意識の顕れの賜です。事務局としても随時実施している現場巡視を継続的に行うなど、安全就業研修会や安全・適正就業委員会の開催、また技術講習会開催等の際には安全・適正就業についても必ず触れるなどの様々な機会を活用して、「事故ゼロ」を目指し会員の健康と幸福に寄与してまいりたいと思います。

《事務局長 吉門 誠 記》

### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 158人(男性107人、女性51人)
- ② 粗入会率2.8%
- ③ 就業率 82.9%
- ④ 就業実人員 131人(請負・委任 115人、派遣事業 16人)
- ⑤ 就業延人員 8,841人(請負・委任 8,501人、派遣事業 340人)
- ⑥ 契約金額 54,996千円(請負・委任 53,539千円、派遣事業 1,457千円)

## 1. 大川市の概要

本市は、福岡県南部の主要都市である久留米市、大牟田市や佐賀県佐賀市を結ぶトライアングルのほぼ中心に位置しており、福岡県南部から佐賀県東部に広がる筑紫平野の中央にあつて、“エツ”で有名な筑後川が市の西部を流れ有明海に注いでいます。また、市内を延べ 300 キロメートルにもわたるクリークが縦横に走り、独特の景観を有しています。

主要な産業は、「大川家具」「建具」などの木工業で、木工所、家具店、製材所などの木工業関連の建物が集積しています。また、筑後川と有明海の豊かな恵みによってもたらされる水稻・いちご・海苔などの農水産業も盛んです。

## 2. 安全就業の取組

### (1)安全・適正就業委員会

委員会は理事3名、安全・適正就業推進員1名（職員）会員2名の計6名で構成され、年3回の定例会議を開催しています。会議では、事故発生原因の分析と対策、安全就業巡回指導ではそれらをフィードバックしたチェックリストの作成と意見交換を行いながら実効性のある運用に努めています。

### (2)安全就業巡回指導(安全パトロール)

7月から12月迄の半年間、主に植木剪定業務、草刈業務を中心に、月1回、3～4箇所の就業現場を、安全・適正就業委員を中心に役員、職員も加えた4名で巡回、指導を行っています。役員の方にも現場の実際を知ってもらうためにも参加をお願いしています。

### (3)安全講習会の実施

就業開拓部会が中心となり、年1回草刈り講習会と剪定講習会を実施する事としていますが、令和3年～4年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。令和5年度からは再開する予定です。

### (4)安全だよりの発行

年2回全会員へ発行し、事故事例や時節柄注意すべき事項等を分かりやすく掲載し、安全就業についての注意喚起を行っています。また、社用車車庫横の壁には、「安全掲示板」を設置して無事故日数をリアルタイムで掲示しています。事故が発生した場合には、その内容と再発防止策を記載した報告書を掲示板横に貼り出し、職員や来所した会員へ注意を喚起し、安全就業の徹底を図っています。

### (5)会員の健康管理

熱中症にならないために、夏場は草刈・剪定等の屋外作業では、予報で当日の最高気温が35度以上であった場合には、午前中のみ就業として午後からの就業を制限しています。

～最後に、今回の受賞を励みにして、今後もより一層会員及び役職員が一丸となり安全就業に努めます。～

《事務局長 内田 雄治 記》



〈令和4年安全就業出発式の様子〉

#### センターの概要(令和4年度)

- ①会員数 184人(男性 114人、女性 70人) ②粗入会率 1.34% ③就業率 98.9%
- ④就業実人員 211人(請負・委任 182人、派遣のみ 29人)
- ⑤就業延人員 20,629人(請負・委任 17,947人、派遣事業 2,682人)
- ⑥契約金額 1億2,003万円(請負・委任 1億272万円、派遣事業 1,731万円)

## 1. 宮若市の概要

宮若市は福岡市と北九州市の中間(約35km)に位置し、中山間地域で盆地のため雲海を見ることができる。北部に山陽新幹線や九州縦貫道が走り若宮インターチェンジがある。昔は炭坑の町で栄えていたが、現在市内にはトヨタ自動車九州や自動車関連企業の工場が数多く立地増加している。宮若市と小竹町の広域SCとして構成し、人口は約33,600人、高齢化率は43.6%と小規模なセンターです。

## 2. 安全就業の取組み

### (1) 安全・適正就業対策部会

部会は、理事2名、会員5名、事務局2名(内安全・適正就業推進委員)の計9名で構成し、年3回の会議を開催、事故発生状況の原因分析と再発防止に向け対策検討、安全・適正就業パトロールの実施、安全対策関係の情報を会員向け会報「安全だより」へ掲載。また、数年前に軽微な事故が多発した以降、安全面には特に注意喚起を図っている。

### (2) 安全パトロールの実施

安全・適正就業対策部会委員、事務局職員でチームを構成し、3～4チームで安全パトロール(抜き打ち)を実施しています。主に屋外作業(剪定・伐採・草刈・草取り)等の現場を中心に巡回し、安全パトロールチェックリストにより体調管理や危険箇所など再度確認し声掛け重視、他シルバーの事故状況を交え安全意識の高揚に努めています。特に、飛石事故への注意指導を徹底している。



### (3) 安全就業促進大会

毎年、安全就業促進大会を開催し、会員の安全就業・健康管理・交通安全の意識高揚を図っています。

今回の表彰を受け、今後も会員及び役職員が安全意識の高揚に努め、「安全はすべてに優先する」をモットーに、「事故ゼロ」を目標に取り組んでまいります。

《事務局次長 柴田 直輝 記》

センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 218 人 (男性 133 人、女性 85 人) ②粗入会率 1.48% ③就業率 100%
- ④ 就業実人員 218 人 (請負・委任 210 人、派遣事業 29 人)
- ⑤ 就業延人員 22,654 人 (請負・委任 19,917 人、派遣事業 2,737 人)
- ⑥ 契約金額 1 億 5,742 万円 (請負・委任 1 億 4,027 万円、派遣事業 1,715 万円)

## 1. 行橋市の概要

行橋市は、福岡県の東部、北九州市と大分県中津市のほぼ中間に位置し、周防灘に面した京都平野の中核として発展してきました。人口は約7万1千人、面積は70.06k㎡で、北九州市や苅田町への通勤者が多く、結びつきが強くなっています。商業都市といわれていますが、田畑も多く、稲作や果物の栽培が盛んに行われ、海岸沿いでは、牡蠣の養殖も行われています。

## 2. 安全就業の取組

当センターは、理事2名(1名は理事長)、安全就業推進員5名、事務局長1名の計8名からなる安全管理委員会を設置し、安全パトロールを中心とした取組みを行っています。委員会では、安全パトロールでの結果検証を行い、多かつた違反や危険行為については、定時総会や安全適正就業推進大会で報告して、事故防止に努めています。

### ○安全就業における重点管理項目の設置

近年での事故内容を検証し、安全管理委員会での会議で決定しています。令和5年度の重点管理項目は、以下の3点です。

- ①作業前、全員での現場見回りによる危険箇所等の確認
- ②「飛び石」対策の徹底
- ③作業終了後、ミーティングの実施(ヒヤリハット等)

### ○安全パトロールの実施

安全パトロールは、理事・推進員・事務局長・安全担当職員の4名体制(理事、推進員は輪番)で、繁忙期の7月から12月にかけて月2回実施しています。1回のパトロールで4箇所の就業現場を抜き打ちで訪問して、予め決めた点検項目を4名それぞれが確認して、違反行為等があれば、その場で現場責任者(班長)に注意喚起を行っています。



安全パトロールの様子

### ○安全管理委員会

委員会の構成は上記の8名で、年間3回会議を行っています。3回の会議の内容は以下のとおりです。

- ①年間安全就業実施計画の策定・募集した安全標語の優秀作品の選出
- ②安全パトロールの中間報告
- ③安全パトロールの総括・次年度の点検項目及び重点管理項目の決定

### ○安全適正就業推進大会の開催

毎年7月(全国労働安全月間)に開催しています。大会では、県シルバー連合会の安全担当者、警察の交通課、市の保健師等を講師に招いて、安全就業対策、交通安全対策、健康管理及び熱中症対策等について講演して頂いています。

### ○講習会の実施

当センターの受注の約8割を、除草作業・庭木等の剪定作業が占めている状況から、刈払い機講習会と剪定・チェーンソー取扱講習会を隔年で実施しています。

※このたびは、安全就業優良賞を賜りありがとうございます。今後も更なる安全就業の徹底を図り、事故ゼロを目指して取り組んでまいります。

《常務理事兼事務局長 中村 愛晴 記》

### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 294人(男性 182人、女性 112人)
- ② 粗入会率 1.1%
- ③ 就業率 77.5%
- ④ 就業実人員 228人(請負・委任 198人、派遣事業 79人)
- ⑤ 就業延人員 21,943人(請負・委任 16,981人、派遣事業 4,962人)
- ⑥ 契約金額 1億1,831万円(請負・委任 9,546万円、派遣事業 2,285万円)

## 1. 山鹿市の概要

山鹿市は、平成17年1月、山鹿市・鹿北町・菊鹿町・鹿本町・鹿央町の1市4町が合併して誕生しました。豊かな自然環境のもと、良質な温泉、古代から近代に至る歴史・文化遺産、伝統工芸・芸能、豊富な農林産物などが本市の自慢です。また、8月に開催される山鹿灯籠まつりは九州屈指の夏の風物詩として、県内外からの多くの観光客で賑わいます。

## 2. 安全就業への取り組み

### (1) 安全委員及び地区安全対策員合同会議の開催

安全委員5名及び地区安全対策員7名で構成され、年間の行事計画(講習会等)や発生した事故の原因究明及び安全対策についての合同会議を開催しています。

令和4年度は、傷害保険の熱中症特約付きの保険への切り替えについての検討も行いました。

### (2) 安全巡回パトロール

安全巡回パトロールとして、年6回(奇数月)実施しています。剪定、除草、農作業等の屋外作業現場を中心に安全委員・地区安全対策員及び職員で巡回し、安全就業のチェックを行っています。

また、巡回の際には事故事例を挙げての情報共有や、熱中症対策についての注意喚起を行い安全意識の高揚を図っています。

### (3) 講習会の開催

技能の向上及び安全就業の徹底を図るため、草刈り・剪定作業の各講習会を年1~2回実施しています。また、技能講習以外では、安全運転についてや健康維持についての講話なども開催しています。

### (4) 安全便り・SMS等による情報発信

年4回発行している安全便りでは、事故の発生状況や講習会のお知らせ等を行っています。

また、事故が起きた際にはいち早く情報発信を行うために、会員の携帯電話へショートメール機能を用いて、事故速報等を送信しています。



## 3. 今後に向けて

「安全はすべてに優先する」の理念のもとに安全就業を徹底し、安全就業は個々の会員だけではなく組織全体の課題としての認識を持つよう会員の安全に対する意識の高揚に努め、「事故ゼロ」を目標に取り組んでまいります。

《業務主任 渡辺 雄亮 記》

### 【令和4年度の実績】

①会員数 497人 (男性:320人 女性:177人)②粗入会率 2.2%

③就業実人員 請負・委任 453人 派遣 82人

④就業率 請負・委任 83.7% 派遣 72%

⑤就業延人員 53,082人日 (請負・委任:53,082人日 派遣:6,803人日)

⑥契約金額 (請負・委任:187,159,026円 派遣事業:48,043,788円)

## 1. 八代市の概要

八代市は熊本県の南に位置し、面積は約 681 km<sup>2</sup>。山間地と平野があり、球磨川と豊富な水と 20 万トン級岸壁を有する港湾を活かして施設園芸、農業、工業が発展しています。九州縦貫自動車道や九州新幹線が通っており交通アクセスもよく、また、八代港は国の重要港湾で、韓国や台湾との航路があり、物流・人流の拠点として重要な役割を果たしている都市です。

## 2. 安全就業への取り組み

### (1) 基本的な考え方

当センターの事故防止において最も重要視していることは、「個別対応とリスクアセスメント(危険を評価する)」です。会員の体力や認知機能、健康状態には個人差があり、同じ対策を適用するだけでは不十分です。全体の安全対策も大切ですが、机上の対策だけでは実情を正確に把握するのが難しく、効果的な対策が難しいこともあります。したがって、現場に出向いて直接会員とコミュニケーションをとり、個々に合わせた安全対策を講じることが重要で、これにより会員の安全意識が向上し、事故防止につながります。会員自らが安全を意識し、安心して活動できる環境づくりを基本として安全対策を構築しています。

### (2) 安全対策部会

安全対策部会は理事1名、会員5名、安全適正就業推進員1名(職員)の計7名で構成され、原則年3回の会議を開催しています。会議では、年間の活動計画、事故防止策等の見直しや新たな対策を決定し、各職群班へ周知徹底をお願いしています。

### (3) 安全パトロール

安全対策部会員が抜き打ちによる安全パトロールを令和4年度は年6回実施し、安全への注意喚起を行っています。

### (4) その他の取り組み

・安全大会の実施(コロナにより3年間中止、令和5年度以降は職種別安全講習会実施)

◆除草・草刈班→軽量の防護ネットの設置、飛石の発生しない機具(スーパーカルマー)の使用、違反者へのペナルティ制度、草刈班安全対策書の共有(10年間で発生した事故の写真、賠償額、ペナルティ、作業方法を記したもの)

◆剪定班→植木剪定班事故事例集の共有(過去5年間の事故の写真、賠償額が記したもの)、違反者へのペナルティ制度



## 3. 今後の課題

- ・「個別対応とリスクアセスメント(危険を評価する)」の確立。
- ・罰則型アプローチから賞賛型アプローチへ
- ・事務所型アプローチから現場型アプローチへ
- ・安全パトロールの強化(年10回以上)

《業務係長(安全適正就業推進員) 荒井 岳大 記》

### センターの概要(令和4年度)

- ① 会員数 1,208人(男性 758人、女性 450人)
- ② 粗入会率 2.37%
- ③ 就業率 77%
- ④ 就業実人員 931人(請負・委任 755人、派遣事業 176人)
- ⑤ 就業延人員 86,315人(請負・委任 75,587人、派遣事業 10,728人)
- ⑥ 契約金額 4億1,454万円(請負・委任 3億5,828万円、派遣事業 5,626万円)

## 1 佐賀県シルバー人材センター連合会の概要

当連合会は、平成9年3月に設立され27年目を迎えました。少子高齢化が進行する中、会員数は年々減少傾向にあります。

「安全・適正就業委員会」を通じ、連合会と拠点センターは、安全就業ニュース・佐賀県安全ニュース等により情報共有を行い、少しでも事故を減らすよう努めています。

## 2 主な取り組みについて

### (1) 安全・適正就業委員会

委員 6 名(理事 3 名、拠点事務局長 3 名)で構成し、年 3 回開催。前年度事故発生状況、安全パトロールの実施、安全就業促進大会の開催等について、取組み状況及び意見交換を行っている。

### (2) 安全就業促進大会

年 1 回、「安全・適正就業強化月間」中の 7 月に開催。

- ・安全就業スローガンの優秀作品表彰
- ・安全就業優良センター表彰
- ・センターの事例発表 等を行う。

### (3)安全就業リーダー養成講習会

センターの安全就業リーダー(班長等)の養成を行うための講習会として開催。

年 1 回、屋外作業が繁忙期となる前の 5 月に開催。

### (4)佐賀県安全ニュース

令和3年11月から、事故防止対策等の徹底を図ることを目的に、県連合会・各センターが共通認識をもって対応していくため発行(隔月発行)。



安全パトロールの様子

## 3 今後の目標等について

安全就業優秀連合賞受賞を励みに、各拠点センターとともに安全就業に努め、事故「0」を目指して、これからも積極的に安全対策に取り組んでいきたいと思ひます。

《業務課長 三好 雅昭 記》

### 佐賀県シルバー人材センター連合会の概要(令和4年度)

- ① センター数19団体(国庫補助 12 団体、国庫補助対象外 7 団体)
- ② 会員数 3,527 人(男性 2,313 人 女性 1,214 人) ③ 粗入会率 1.2% ④ 就業率 85.6%
- ⑤ 就業実人員 3,020 人(請負・委任 2,933 人 派遣事業 253 人)
- ⑥ 就業延人員 355,450 人(請負・委任 329,359 人 派遣事業 26,091 人)

## 1 秋田県の概要

東北地方のやや北の日本海側に位置し、人口がおよそ94万人、面積は東北で3番目、全国では6番目となっております。秋田県では、少子高齢化により、高齢化率、人口減少率ともに全国ワースト1位と、今後、過疎化の進展が予測される中で、地域経済や社会活動の停滞や縮小が危惧されております。

## 2 安全就業の主な取り組みについて

### (1)「安全・適正就業対策部会」の設置

当連合会では、連合会理事、センターの事務局長等を構成員とする「安全・適正就業対策部会」を設置し、事故状況の報告や発生原因の分析、分析結果に基づく対策を検討し、年度末に「安全就業推進計画」を策定しています。※部会の開催頻度は年2回～3回です。

### (2)「安全パトロール」の実施

安全・適正就業対策部会の構成員が、年1回、拠点センターに対する「安全パトロール」を実施しております。「安全パトロール」の際には、拠点センターの安全適正就業委員会のメンバーと意見交換を行い、安全就業に対する共通認識を持つようにしています。

### (3)「安全就業推進大会」の開催

毎年7月に「安全就業推進大会」を開催し、優良センターや安全標語入選者の表彰を行う他、「安全講習会」を開催し、拠点センター役職員や会員の安全就業意識の啓発に努めています。

### (4)「安全衛生研修会」の開催

昨年度、県内3カ所で開催した「安全衛生研修会」では、刈払機メーカーの職員を講師に依頼し、刈払機の安全な使用やメンテナンス方法の説明の他、実技指導を行いました。また、研修会で使用した『安全読本』を連合会で印刷し、希望する拠点センターに配付しました。



## 3 安全就業対策における課題

安全就業対策が効果を上げるためには、多くの会員に安全対策の重要性を理解してもらい、具体的な事故防止対策を励行してもらうことが必須ですが、連合会は直接、会員に接する機会が少ないことから、センター職員を通じて安全就業意識の高揚や啓発、講習会の内容を伝達してもらうことになります。しかし、実際に作業に携わる会員になかなか伝わらない状況にあり、毎年、同様の事故が繰り返し発生している現状があります。より多くの会員に向けた、効果的な伝達方法を工夫する必要があると考えております。

## 4 今後の取り組みの考え方

センターと連携して、いかに多くの会員に安全就業の必要性を訴えていくかを考えるとともに、センター職員の方にも会員個人の問題という意識を払拭してもらい、センター、会員、連合会が一体となって、連携していくための手段を工夫していきたいと考えています

《事務局長 茂木 重雄 記》

### 秋田県シルバー人材センター連合会の概要(令和4年度)

- ① センター数 22 団体(国庫補助 16 団体、国庫補助対象外 6 団体)
- ② 会員数 6,930 人(男性 4,965 人 女性 1,965 人) ③ 粗入会率 1.60% ④ 就業率 87.0%
- ⑤ 就業実人員 6,029 人(請負・委任 5,551 人 派遣事業 1,192 人)
- ⑥ 就業延人員 615,034 人(請負・委任 508,075 人 派遣事業 106,959 人)

# 安全就業のためのチェックポイント

表紙

一部内容



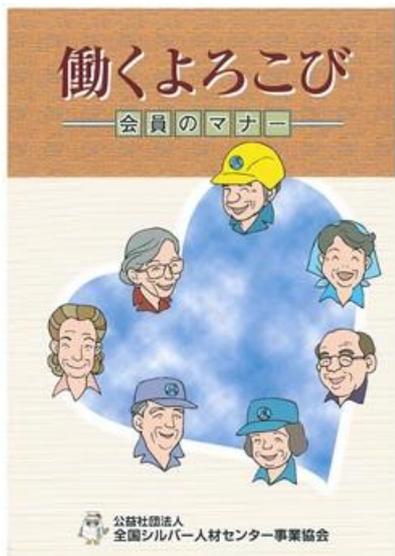
A4判 32 ページ  
 2017(平成 29)年 3 月発行 以降、増刷対応  
(10部以上からの販売)  
 価格 220 円(税込)、送料実費

会員が安全に就業するための要点を、  
 全カラー版でまとめたイラスト小冊子

# 働くよろこび 会員のマナー

表紙

一部内容



シルバー人材センターが地域社会に不可欠なインフラとして活動を推進していくには、会員一人ひとりが、適切快活なマナーの下に活動することが何より大切なことといえます。

本書は、シルバー人材センターで働く基本マナーから就業上におけるマナーまでを取りまとめたものです。

全国各地で活躍するシルバー人材センターの会員の参考書となれば幸いです。

まえがき (抜粋)

A5判 96 ページ  
 2005(平成 17)年 3 月 初版 1 刷発行  
 2023(令和 5)年 4 月 初版 11 刷発行  
 価格 550 円(税込)、送料実費



よろしくお願ひします。